# 第 54 回全国学校保健・学校医大会

理事　白井　和美

**令和 5 年度第 54 回全国学校保健・学校医大会**
メインテーマ 「子どもたちの健やかな成長を守る　～我々が守らなければ誰が守る！ ～」

日　時：令和 5 年 10 月 28 日（土）10：00 ～　※後日、オンデマンド配信
会　場：神戸ポートピアホテル　南館・ポートピアホール
主　催：日本医師会
担　当：兵庫県区師会
参加者：日本医師会会員および学校保健に関係ある専門職の者

**第 1 分科会**
【座長】　兵庫県医師会常任理事　杉原加壽子
兵庫県医師会学校保健委員会委員　横田　光

**第 2 分科会**
【座長】　兵庫県医師会常任理事　片山　啓
兵庫県医師会学校保健委員会委員長　松岡　弘高

**第 3 分科会**
【座長】　明石市医師会会長　橋本　彰則
兵庫県医師会学校保健委員会委員　満田　基温

**第 4 分科会**
【座長】　兵庫県耳鼻咽喉科医会会長　髙原　哲夫
神戸大学耳鼻咽喉科頭頸部外科特命教授　柿木　章伸

**第 5 分科会**
【座長】　兵庫県眼科医会会長　古川　清実
兵庫県医師会理事　相馬　葉子

都道府県医師会連絡会議
次期担当医師会長挨拶

開会式・表彰式
開　会
挨　拶：兵庫県医師会会長　八田　昌樹 / 日本医師会会長　松本　吉郎
祝　辞：兵庫県知事　齋藤　元彦 / 神戸市長　久元　喜造 / 日本学校保健会会長　松本　吉郎
兵庫県教育委員会教育長　藤原　俊平
表　彰：学校医 6 名 / 養護教諭 6 名 / 学校関係栄養士 6 名
謝　辞：受賞者代表

シンポジウム
テーマ「トラウマインフォームドケア　～子どもたちのトラウマを理解し、社会がどう変わるべきか～」
【座長】 兵庫県医師会理事　林　伸樹
①提　言　兵庫県医師会元常任理事　大森　英夫
②「いじめ・虐待に遭ってきた子どもたち」　兵庫県立尼崎総合医療センター小児科長　毎原　敏郎
③「子どもへの性暴力～ワンストップ支援センターの立場から～」
NPO 法人性暴力被害者支援センター・ひょうご理事
兵庫県立尼崎総合医療センター産婦人科部長　田口　奈緒
④「トラウマインフォームドな子どもへの対応」
武庫川女子大学　心理・社会福祉学部社会福祉学科准教授　大岡　由佳
⑤ディスカッション
⑥総　括　兵庫県医師会元常任理事　大森　英夫

特別講演
【座長】 兵庫県医師会会長　八田　昌樹
「淡路島のサルから考える寛容性と協力社会」
【講師】 一般社団法人淡路ザル観察公苑理事
大阪大学人間科学部講師　山田　一憲

令和5年10月28日、日本医師会主催、兵庫県医師会の担当で標記大会が神戸市で開催されたので報告する。

メインテーマは、「子どもたちの健やかな成長を守る～われわれが守らなければ誰が守る！～」と、大変力強いもので、担当医師会の並々ならぬ意気込みが伝わった。

午前は、からだ・こころ (1) (2) (3) と耳鼻咽喉科、眼科の5分科会が開催され、我々は、第3分科会からだ・こころ (3) に参加した。

1題目は、子供の生活習慣に関し、島根県出雲市で15年間に渡り小学1年生の調査を行い、夜9時までに就寝する割合の低下、スクリーン時間の増加の傾向が鮮明化したとされた。3～5題目は、肥満に関して、札幌市で2019年度から成長曲線・肥満度曲線から医療機関への相談のおすすめ基準を作成した件、各務原市からは、コロナ禍の行動制限が子供の肥満を増加させた件とその原因の分析、姫路市からは、40年間肥満児検診を継続し、全国平均を下回る肥満率を維持してきた実績が報告された。6題目以降は運動器検診に関してで、特に側湾症については、モアレ検診では見逃しが起きやすく、それに変わるスコリオマップ検診などの新たな装置が開発されつつあると報告された。

尚、2題目には、当会から「沖縄県における『次世代の健康教育推進事業』の変遷～令和4年度改訂版と電子ブック作成、利用率の変化について～」を発表した。

午後からは、開会式、表彰式が行われた。八田兵庫県医師会長、松本日本医師会長から挨拶があった後、兵庫県知事など来賓方から祝辞が述べられ、学校医・養護教諭・学校関連栄養士それぞれ6名ずつの表彰式が厳かに執り行われた。そして次期担当の宮崎県医師会長からのご挨拶で式典は締めくくられた。

シンポジウムは、テーマを「トラウマインフォームドケア～子供達のトラウマを理解し社会がどうかわるべきか～」として開催された。

トラウマインフォームドケアという考え方は、アメリカで進められてきた考え方で、安心・安全な学校を作るために今広く推し進められてきている方法という。

わが国では、現状、学校で起きる児童生徒の問題行動は、発達障害などが原因と理解されることが多いが、疾病への対応で改善しないことも経験する。一方、子供たちの生育環境を見てみると、虐待やいじめ、不適切な養育、深刻なトラウマは勿論、さほど強烈では無いが繰り返しトラウマなどを経験していることがある。そういった子供たちには、これらのトラウマが原因となって発達障害等に似た症状や反応が起きている場合がある。逆に考えれば、問題行動等を起こす子供は、「何らかのトラウマを抱えているかもしれない」と気づくことで、彼らの不適切な行動のきっかけなどがわかり、回避行動を取れるように支援できたりする。我が国では、約60%と多くの児童生徒がトラウマを抱えており、彼らの行動にトラウマが影響しているかもしれないと、「トラウマの眼鏡」をかけ、対応することが大切であるということであった。

特別公演では、「淡路島のサルから考える寛容性と協力社会」をテーマに（一社）淡路ザル観察公苑理事山田一憲氏が、専制的な社会構造を持つニホンザルの中で例外的に寛容な集団を維持している淡路島のサルが、その寛容性のために世界で初めて協力行動を獲得したことを実験で証明された経緯と、原因等についての考察をお話しされた。フロアからの質問が殺到するほど大変興味深い講演であった。

閉会式には、森山正仁文部科学大臣が来られ、祝辞を述べられた。

その後、4年ぶりとなる対面式での懇親会に移り、大変和やかな懇談の時間を過ごすことが出来た。